

# 映画「雪の花」を観て

日野病院名誉病院長 井上幸次



毎回、せせらぎに原稿を書いていると、ネタがなくなってきたので、今回は映画の話で行きたいと思います。そうは言っても病院の広報なので、やっぱり医療と関係あるものが多いと思うのですが、私が映画を観るのは、自分の楽しみのためであって、何かの役に立てようと思っっているわけではないので、医療がからんでくるものはあまり見ないようにしています。仕事のことを思い出してしまうからです。それとたぶん現実とのギャップがかえって気になることもあるかもしれません。ただ、今回紹介する映画は医療に関係はしていますが、時代物なのであまり現実とのギャップを感じることなく観ることができました。小泉堯史監督の新作の「雪の花」という映画で、吉村昭の同名の小説を原作にして、幕末の頃に福井県で種痘を広めようと苦闘した笠原良策という町医者の実話です。主人公を演じているのは松坂桃李で、この人は、「孤狼の血」のハードな刑事、「蜜蜂と遠雷」のピアニスト、「流浪の月」の繊細な誘拐犯(?)など結構幅広い役がこなせる人で、今回は大変真面目な医師の役というわけです。真面目すぎて面白味にかけるところがあって、それはこの映画の欠点でもあるのですが、やはりこういう真っ当な、佇まいの美しい映画が、多くの人たちに受け入れられる世の中であってほしいものです。

幕末の頃は天然痘で多くの命(特に子どもの命)が失われていたのですが、現代でも新型コロナの時にワクチンに対してネガティブな意見や風評がいろいろあったことを思うと、医療イコール漢方であり、西洋医学は邪道であると思われていた時代、ウイルスの概念もワクチンの概念もない時代に種痘を広めるといのがいかに困難であったかは想像にかたくありません。特にこの時代は牛痘(牛の天然痘)の苗を人の皮膚に接種して、それがうまくついたら、一週ごとぐらいに次の人に植え継がないと苗が絶えてしまうという問題がありました。この映画では、京都から福井に種痘を持ち帰るために、わざわざ福井から京都に子どもとその家族を連れてきて、その子に種痘して、皆で山越えをするシーンがあって、圧巻です。まるで八甲田山のように吹雪いている中を子連れで山越えするのですから、まさに命がけです。予防接種した子どもを危険に晒しているのに、今なら完全にアウトでしょうけれど、そういう極端なことでもしなければ、世の中の大きな流れはなかなか変えられなかったのだと思います。福井に帰った後も、漢方医の妨害や藩の役人の無理解など様々な障害を乗り越えて、種痘を福井藩で根付かせるまでのことが描かれています。笠原医師の師匠にあたる日野鼎裁(残念ながら日野とは何の関係もないので念のため)を役所広司が演じていて、出番は少ないのですが、出てくるだけで画面が引き締まります。京都ではじめて種痘が成功した時に、種痘を行った皮膚が少し赤く腫れているのを見て「花が開き申したぞ」と喜ぶシーンは印象的で、医療者のはしくれである私も治療がうまくいった時の喜びと重なるような気がしました(と仕事の事をやっぱり思い出してしまいました)。小泉監督は黒澤明の弟子なので、この二人に「赤ひげ」の三船敏郎と加山雄三を重ねていたのだらうと思いますが、松坂桃李が種痘を妨害してきたやくざを返り討ちにするシーン(もちろんこれは原作にない完全なフィクションですが)があって、「赤ひげ」の唯一のアクション・シーンへのオマージュになっていました。

実は、以前に飯嶋和一の「狗養童子の島」という小説を読んだことがあって、これは大塩平八郎の乱に親が加担したため、隠岐の島に15歳で島流しにされた常太郎が、隠岐の島で医者になる話なのですが、その中で種痘を広めることについても書かれていたことを思い出しました。それでもしやと思って、その本を引っ張りだして確認した所、常太郎に種痘を教えた原了意という医師について、「六年前、彼の師である笠原良策は、京から牛痘を種えた子どもを連れて福井へ戻り、今日までその痘苗を種えつないで来た。島後でも、島前でも、この度原了意が運んでくれた痘苗を種えつないで行くことができるはずだった」というくだりがあって、今回の映画と見事につながったのでした。

社会が困難な中、それでも地方で医師として奮闘する人たちがいて、しかも彼等の間につながりがあったことには、日野病院で働いている今の我々にもつながってくるものがあるようにも感じられました。江戸では、漢方医の力が強すぎて、逆に種痘が広まらなかったようで、むしろ地方の福井で先に広まったことについては、地方で先進的な医療をしていたことになるんだなと共感を覚えました。まして今の時代はSNSで世界がすべてつながっているのですから、そういうことが地方でもっとあってもよいとも感じました。

笠原良策は和歌の素養があったらしく、その詠んだ歌が残っているのですが、それで締めくくりたいと思います。

たとえわれ 命死ぬとも 死なましき 人は死なさぬ 道ひらきけむ